

第52回 明石市環境審議会

平成25年10月29日（火）午後 3時00分～

場所：明石市生涯学習センター学習室1

○会 長 皆様、こんにちは。定刻となりましたので、第52回明石市環境審議会を開催いたします。本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

まず、本日の審議会の成立につきまして、事務局より報告をお願いいたします。

○事務局A 失礼いたします。審議会事務局、環境総務課長のAでございます。

《環境審議会成立の確認》

○会 長 ありがとうございます。次に、審議会委員に変更がありましたので、事務局より御報告をお願いします。

○事務局A それでは、お手元の明石市環境審議会会員名簿をご覧ください。

《審議会委員の変更について》

○委員C 失礼します。兵庫県北播磨県民局加古川流域土地改良事務所のCでございます。土地改良事務所では、圃場整備や農業用の用排水路の改修などの農業生産基盤の整備、そして老朽化したため池の改修など防災事業を担当しております。環境について、あまり知識があるわけではないので、このような場に出席するのは非常に恥ずかしいのですが、どうぞよろしく申し上げます。

○事務局A どうもありがとうございました。委員Eにおかれましては、業務の御都合によりまして少しおくれて御到着ということをお聞きしております。後ほど、お見えになられてから御挨拶をお願いしたいと思います。

以上でございます。

○会 長 委員C、ありがとうございました。どうぞよろしくお願ひいたします。
それでは、この第52回明石市環境審議会次第をご覧ください。その次第に沿って審議会を進めてまいります。

初めに1の報告事項、第13回自然環境部会の報告について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局B 事務局のBです。私のほうから第13回自然環境部会の報告をさせていただきます。座ってご説明させていただきます。

報告の前にお配りしております資料の確認をさせていただきたいと思ひます。まず、はじめに審議会の次第でございます。1枚めくっていただきまして、資料1としまして自然環境部会の報告がございます。資料1には別紙1、ミシシッピアカミミガメ防除調査中間報告、別紙2、「明石市自然環境調査データベースについて」を添付しております。その次が資料2となっております。明石市環境レポート2013（素案）です。資料2も別紙、「明石市環境レポート年次報告書について」を添付しております。その次が資料3、A4の一枚ものですが、生物多様性あかし戦略推進会議についてとなっております。その他参考資料といたしまして、先ほどご覧いただきました審議会員名簿、メガソーラー事業のパンフレット、アカミミガメのキャンペーンを特集した「広報あかし」等を添付しております。資料の御不足はございませんでしょうか。

それでは自然環境部会の報告に移らせていただきます。
資料1をご覧ください。第13回自然環境部会は、平成25年9月20日14時53分より明石市クリーンセンターにて開催いたしました。出席者は自然環境部会員5名、事務局4名、計9名でございました。議題ですが3項目ございまして、平成24年度の取り組みについて、平成25年度の取り組みについて、生物多様性意見交換会（仮称）についての3項目でございました。

まず平成24年の取り組みについての1項目といたしまして「明石川及び明石市内ため池群生物・生態系調査」報告をさせていただきました。この調査は明石川の水生昆虫、植物と市内のため池3カ所の植物・鳥類・魚類・水生昆虫の生息状況を調査したものです。調査結果については記載のとおりでございます。委員の皆様からは自然環境調査の実施方法について、調査場所ごとの調査よりも調査

項目を限定して、より広域で調査してはどうか、というような御意見を多数いただきました。

次に2項目といたしまして、「ミシシッピアカミミガメ生息域実態調査」について報告させていただきました。本調査は要注意外来生物であるミシシッピアカミミガメ生息状況を確認するため、平成23年度より実施しております。平成24年度は特にアカミミガメが多いため池5カ所選びまして、一定期間でアカミミガメの数をどれくらい減らせるのか、また捕獲の方法や捕獲時期などを検証するため、6月から12月にかけて調査を行いました。調査結果ですが、5つの池で合計744匹を捕獲し、資料1の裏面にございますように、アカミミガメの生息割合を大幅に減らすことができました。

次に平成25年度の取り組みといたしまして、ミシシッピアカミミガメ防除調査中間報告と「自然環境調査データベース」についての2項目について報告させていただきました。まず、アカミミガメ防除調査の中間報告についてですが、添付しております別紙1をご覧ください。1枚めくっていただきますと、今年度はアカミミガメが多く生息していることで知られている谷八木川及び流域のため池5カ所において、アカミミガメを捕獲する防除調査を実施いたしました。防除調査は5月から6月にかけて1カ月間実施し、その後防除の効果を確認する効果確認調査を実施いたしました。その結果ですが、次のページを見ていただきまして、8月末までに合計3,168匹を捕獲いたしまして、そのうちアカミミガメは1,845匹と全体の約6割を占める結果となりました。なお、クサガメ、スッポンなどの在来種は大きさ、性別等を確認した後、元の場所に戻しております。

次に、「自然環境調査データベース」について報告させていただきます。これは平成16年度より継続して実施しております自然環境調査の資料整理を目的としてデータベースを作成したものです。データベースの内容といたしましては、植物や鳥類など確認した地点や年月日、種類、種名、貴重種、外来生物等の区分などとなっております。別紙2にデータベースの一部を抜粋して記載しております。今後は順次データの追加を行うとともに、自然環境に関する活動を行っている市民団体の皆様と連携を深め、このデータベースの活用方法について検討を進めていきたいというふうに考えております。

最後に「生物多様性意見交換会」について、事務局より提案させていただきます

した。資料1の裏面の3になります。こちらは「生物多様性あかし戦略」推進に向けて自然環境をフィールドに活動されている市民団体の皆様との意見交換会について提案させていただいたものです。自然環境部会では実施の方向性について御理解をいただき、実施方法や名称について御検討いただきました。その上で本日の環境審議会では意見交換会の名称も含めて改めて提案するように御意見を頂戴しましたので、後ほど議事2で御提案をさせていただきたいと考えております。以上簡単ではございますが、第13回自然環境部会の御報告を終わらせていただきます。

○会 長 はい、ありがとうございました。ただいま、自然環境部会の報告をいただきましたが、恐らくこの環境部会のメンバー以外の方にはミシシippアカミミガメの調査のことがわかりにくいと思いますので、この「広報あかし」がわかりやすいと思いますので、これを使ってもう少し詳しく御報告いただけますでしょうか。なぜこれを防除しないといけないのかとかですね。

○事務局B こちらの「広報あかし」の1面を見ていただきますと、「捨てたらあかん、ミドリガメキャンペーン」ということで書いています。正式名称をミシシippアカミミガメといいまして、北米原産の外来種で小さいときの名前が通称ミドリガメといいます。非常に小さいカメで昔夏祭りとかでカメすくいでも売られていたものです。非常に安価で、1匹二、三百円ぐらいで買えるようなもので今でも年間20万匹ほど輸入されているということです。非常に日本でも普及しており、世界中でも爬虫類で一番数が多いとのこと。

 こちらのカメですが、淡水のカメですので川や池にすんでいます。非常に繁殖力が強く、たくさんいろいろなものを食べる雑食性ですので、水生の植物も食べますし、ザリガニも食べますし、トンボの幼虫ヤゴも食べます。聞くところによりますと海のカキも食べるということで、雑食性で非常に繁殖率も高くなっています。日本にもとからいるイシガメ、クサガメという日本本来のカメの生息域を圧迫しているというような状況が懸念されております。

 また明石は非常にため池が多く107つありますが、ため池にあるハスの花の根を食べてしまうということで、カメがいる池にはハスの花がなくなってしまう

と、あるいはザリガニとりをされている市民団体の方からお聞きしますと、カメがたくさんいますとザリガニがいなくなってしまうということで、そういうところで被害が出てきていると言われております。また他の地域ですが、例えば徳島県ではレンコンを食べてしまうということで、JAさんがカメの駆除をされていたり、また東京のほうでも池のカメが増え過ぎるということでNPOの方が防除されるというような活動をされております。

そのような動きを受けまして明石では平成23年度より須磨海浜水族園さんの御協力をいただきまして、アカミミガメの生息域の調査を始めたというところでございます。

○会 長 ありがとうございます。ミシシippアカミミガメ、ミドリガメですね。そのことにつきまして今御説明いただいたわけですが、ただいまの報告の自然環境部会全体の取り組みにつきまして何か御質問、または御意見ありましたらよろしくお願ひいたします。

○委員 A Aです。これは非常に大事な取り組みだし、なかなか効果が上がっているなどというふうに思います。これアメリカから輸入しているんですよね。年間20万匹というふうに先ほど報告がありましたけど、原産地のアメリカではどうなっているんですか。とにかく雑食性で何でも食べてしまう、こういう性格を持っているということですよ。輸出元のアメリカの生態系の現状はどうなっているのかということが気になりましたもので、御質問してみたいと思ったんです。

○事務局 A 実はこのミシシippアカミミガメの天敵はワニでございます。アカミミガメが生息しているミシシipp川ではワニが生息しておりますので、ある程度の繁殖力とのバランスは取れているかとは思いますが。その分、天敵がいる分だけ卵を生む数が非常に多くなっています。日本のイシガメの2個ぐらいに対してミシシippアカミミガメは多ければ20個ぐらい卵を生みます。正直言ひまして日本にはワニはおりませんので、その分だけ繁殖しているのではないかと考えております。

以上でございます。

○委員 A ありがとうございました。

○会 長 恐らく捕獲したミドリガメがどうなるのかということが気になると思うのですが、この広報に書いてあるのですが、捕まえた分はどうなるのでしょうか。

○事務局 B 説明が漏れておりまして、申しわけございません。

 広報誌の1面の下の方に書いていますが、神戸市立の須磨海浜水族園の中にあります淡水カメ研究施設「亀樂園」に収容していただいております。

○会 長 焼却処分するわけではないということですね。

○委員 A どんどん増えてくるやろう水族園のほうだって、ある程度殺処分もやっているんですか。

○事務局 B 研究施設ですので、もちろん解剖ということもございますし、施設の中で数が増えていった場合の対応、処理はあるかと思えます。私どもとしては一旦研究施設にまず収容するというので、例えば性別とか大きさとか全て計測をしておりますので、その上で施設に入った後については水族園のほうに任せているという状況でございます。

○会 長 はい、ほかに。委員 G。

○委員 G 意見ではないんですが、過去に明石ゴミ研究会が川の水質検査をしたことがあります。ちょうど15年ほど前の水質検査と同時期に、工場が消毒剤か何かを流されて赤根川の魚がほとんど浮いた状態になりました。そのときは事件みたいな形で報道のヘリコプターが飛んだり、結構ハプニングになりました。その後、工場の方が申しわけないという感じで川の掃除をされたりするのを見ていたんですけど、このカメは死なないです。

○会 長 その消毒薬によっても。

○委員G 全然そのときに死ぬというような感じじゃなかったですね。

○会 長 それほど強い。

○委員G はい。それほど生命力があるという、すごいそのときに印象があったので、だから本当にしぶといカメだなと思って、私もよく明石公園でイベントをするんですが、明石城の堀にカメがいるんです。カメが増える前はこの石垣のところにいっぱい草が生えていたんですが、それが全部食べられてしまって、今はきれいにお掃除したみたいです。

○会 長 草まで食べる。やっぱり何らかの対策は必要だということですね。

○委員G そうですね。

○会 長 はい、ありがとうございました。

ほかに、何か御質問、御意見ございませんでしょうか。はい、委員F。

○委員F 大阪市立大学のFです。

このキャンペーンが終わった後に、引き取りというのは引き続き行っているのでしょうか。アカミミガメキャンペーンの後ですね。

○会 長 今月末までやって、その後はどうなるのかということですね。

その後はいかがでしょうか。

○事務局B こちらのキャンペーンにつきましては今回2週間ということで、まずは試験的といえますか、正直どれぐらい数が集まるのかというのがわからない状況で始めております。現在、途中段階で、まだ計算はできておりませんが百匹越すかなというところの状況になっております。今後につきましては、これからカメも冬の時期で動きが鈍くなってくるということで活動時期ではないので、また今回の反響、効果を見まして来年度以降どのような取り組みが必要かというのを検討

していきたいというふうに考えております。今回のキャンペーンにつきましては、10月末までで一旦は終了させていただきます。

○会 長 一旦終了ということで、よろしいでしょうか。ほかにいかがでしょうか。このミドリガメ以外のことでも自然環境部会のことにつきまして。

一つ私が気になりますのは、せっかくこのような目立つわかりやすい、いいキャンペーンをやりながら、生物多様性という言葉が1つも入ってないんですね。これは「生物多様性あかし戦略」の一環でもあると思うので、市民の方に生物多様性という言葉を理解していただくためにもどこかに生物多様性という言葉があればよかったなと思いました。

ほかに、データベースのことなどにつきましていかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、先ほどの御説明のように、生物多様性意見交換会、仮称となっておりますが、そのことにつきましては後の議題にさせていただくということで、まずは次の議事に移りたいと思います。

続きまして2の議事、①明石市環境レポート2013（案）について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局C 失礼いたします。環境総務課計画係のCと申します。私のほうから明石市環境レポート2013素案につきまして、お配りしております資料2と一枚ものの資料2別紙を使用して御説明させていただきます。座らせて説明させていただきます。よろしくお願ひします。

本日の審議会には新たな委員の方も出席していただいております。初めて環境レポートに関して御審議いただきますので、まず初めに環境レポートの概要について御説明させていただきます。

それでは一枚ものの資料2、別紙をご覧ください。明石市環境レポートは、明石市の環境の保全及び創造に関する基本条例第18条に基づき作成するもので、基本施策の実施状況についてまとめたものです。中ほどの枠内に条例を抜粋しております。その中の括弧書きで年次報告書と記載していますが、これが環境レポートに当たります。条例第18条第1項にありますように、環境基本計画の適正

な進行管理を図るため毎年環境の状況や講じた施策等について報告書を作成し、市民に公表することとなっております。2項にありますように、年次報告書の作成に当たっては審議会の意見を聞くこととなっております。本日の審議会がこれに当たります。

この環境レポート公表までのスケジュールにつきましては、下の図に記載しております本日の審議会の意見を反映させたレポート案を元に11月15日から12月13日までの約1カ月間のパブリックコメントを経て、12月末の公表を予定しております。

また今回の環境レポート素案につきましては、昨年度作成した内容から2点ほど新たな内容を追加しております。この追加の説明につきましては、内容の説明と合わせて行ってまいりますので、よろしく申し上げます。

それでは資料2、レポートを使いまして内容を御説明させていただきます。1枚めくっていただきまして、1ページの目次をご覧ください。初めにこのレポートの構成について簡単に御説明いたします。

まず初めに環境全般に関する取り組みの基本的な考え方を示す第2次明石市環境基本計画に触れております。その後、平成24年度の主な取り組みをトピックスとして御紹介しています。次に第2次明石市環境基本計画の4つの基本方針にあたる低炭素社会、自然共生社会、循環型社会、安全・安心社会、それぞれの社会の実現に向けた取り組み、また環境議会の取り組みについて記載しております。その次には環境基本計画推進パートナーシップ協議会でありますエコウイングあかしの取り組みを紹介しています。その後、環境施策の進捗管理ツールであります環境マネジメントシステムについて紹介しています。続けて各部局の主な取り組みについての事業評価を記載しております。また、巻末には関連する主な資料とその入手方法を記載しています。

それでは順に内容を御説明いたします。2ページをご覧ください。

初めに第2次明石市環境基本計画で示す明石市の目差す環境像とそれを実現するための4つの基本方針について記載しております。この第2次明石市環境基本計画は、計画期間を10年としておりまして、平成23年度に策定しております。また4つの基本方針のうち、3つの柱となります自然共生社会、低炭素社会、循環型社会の実現についてはそれぞれ個別計画を策定しており、全ての計画におい

て市民・事業者・行政の各主体の協働で取り組みを推進することを基本としています。

3ページをご覧ください。ここでは平成24年度の主な取り組みについて記載しております。1点目は再生可能エネルギー利用の促進についてです。これはクリーンセンター内の遊休地を利用し、大規模太陽光発電設備いわゆるメガソーラーを設置するものです。詳しくは本日配付しておりますメガソーラーのパンフレットにも記載しておりますが、1.7メガワットの設備を設置します第1期事業についてはエナジーバンクジャパン様と共同事業の契約を、1メガワットの設備を設置する第2期事業では株式会社きしろ様を代表とする共同事業体へ土地を貸し出す契約を締結しております。このレポートには完成予想図としまして、パース図を掲載しておりますが、実際の完成写真は配付のパンフレットのようになっております。この写真は第1期工事のものです。

2点目は家庭で取り組める地球温暖対策、グリーンカーテンの普及についてです。これは夏の節電につながるということで、市民に人気の高いグリーンカーテンについて元気に大きく育てていただくために、グリーンカーテンの園芸講習会を開催し、受講していただいた方にグリーンカーテンセットを配布したものです。また、家庭や職場などで育てたグリーンカーテンを対象としました「あかしグリーンカーテンコンクール2012」を開催しております。

3点目は、日本郵便株式会社、明石郵便局、明石西郵便局と締結しました「廃棄物の不法投棄に関する協定」についてです。これは業務中に発見した不法投棄の通報を行うとともに、郵便業務車両に「不法投棄パトロール隊」のステッカーを貼ることで、郵便局員の方に不法投棄に関する監視を行ってもらうアピールを行っていただくものです。

4点目は、ごみの発生抑制への取り組みとする、レジ袋の無料配布の取りやめ・廃止についてです。これは平成23年度に市内のスーパー等の事業者や消費者協会と締結しました明石市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定に基づき平成24年4月1日よりスーパー等でレジ袋の無料配布の取りやめを開始したものです。

以上の4点をトピックスに記載しております。

では4ページをご覧ください。ここでは低炭素社会の実現に向けた取り組みと

して、「ストップ温暖化 低炭素社会のまちあかしプラン」に基づき実施した取り組みについて記載しております。4 ページ下の表には市内の温室効果ガス排出量の現状を記載しております。現在入手可能な最新のデータである平成 22 年度の値を基準年度であります平成 2 年度と比較しますと、15.8%の減少となっておりますが、平成 21 年度の値からは残念ながら微増しております。

また 5 ページに記載しております大規模太陽光発電設備の設置補助では、平成 22 年度の補助開始以来設置補助件数が 500 件を上回っております。次に新たな項目としまして、5 ページの下に課題と今後の方向性という項目を記載しております。これは昨年度まではなかった項目で、今年度から追加しております。これは目次の 3、低炭素社会の実現に向けた取り組みから目次の 7 の環境議会の取り組みまでの間の項目について、追加した要旨となります。

続きまして、6 ページをご覧ください。ここでは自然共生社会の実現へ向けた取り組みとして、「つなごう生きもののネットワーク 生物多様性あかし戦略」に基づき実施した取り組みについて記載しております。明石の代表的な自然である水辺で実施した取り組みのほか、市が実施する自然環境調査について記載しております。7 ページ上には先ほど説明いたしましたミシシippアカミミガメの防除調査について記載しております。こちらについては先ほども説明がありましたので、省略させていただきます。

8 ページをご覧ください。ここでは循環型社会の実現に向けた取り組みとして、「みんなで作る循環型のまち あかしプラン」に基づき実施した取り組みについて記載しております。8 ページ中ほどの数値目標達成状況の表をご覧くださいますと、平成 24 年度の市全体のごみの処理量は、基準年度である平成 22 年度と比較して 1 人 1 日当たりの排出量は横ばいですが、ほかのごみ量については減少しています。また、昨年度の実績と比較した場合は、全ての項目で減少しています。円グラフをご覧くださいますと、青色網かけ部分の資源化可能物が、家庭系・事業系ごみともに多く含まれていることが確認できます。やはり今後さらに分別の徹底を図っていく必要があると考えます。また、「みんなで作る循環型のまち あかしプラン」では、3R リデュース、リユース、リサイクルを推進することとしておりますが、中でもごみの発生抑制を最優先に取り組む必要があると考えます。

そこで新たな取り組みとして、10ページの中ほどに記載しております小型家電の回収を試験的に実施しました。これは平成24年11月から平成25年2月末までの4カ月間、小型家電リサイクル法施行前の事前調査として行い、約8.6トンの小型家電を回収いたしました。

続きまして、12ページをご覧ください。ここでは安全・安心社会の実現に向けた取り組みに関する記載をしております。市民が安心して暮らせる生活環境を提供するため、大気や水質、騒音や有害化学物質等の常時監視測定を行うなど大気汚染の実態把握に努めております。特に昨年度話題にもなっており市民関心の高いPM2.5につきましては、測定機器を1台増設し、計3台で計測を行っております。

13ページをご覧ください。ここでは新たな項目としまして、環境美化への取り組みについて記載しております。ポイ捨て・ふん害の防止など美しいまちづくりへの取り組みにつきましても以前から実施しておりますので、今回より新たな項目として追加させていただいております。特に利用者数の多い駅周辺をごみ散乱防止重点区域とし、取り組んできた内容を記載しております。

続きまして、15ページをご覧ください。ここではパートナーシップの取り組みとして、エコウイングあかしの活動を記載しております。エコウイングあかしは、正式名称を環境基本計画推進パートナーシップ協議会といい、環境基本計画を推進するために平成19年に設立された組織です。メンバーは市民や事業者、学校などさまざまな立場や年代の人で構成されております。15ページの図に示しますように、ネットワークの中心となり明石市の目指す環境像を実現するため、計画に掲げる施策をパートナーシップで実践していく大切な役割を担っております。このエコウイングあかしには、ライフスタイル、エネルギー、自然の3つのグループがありますが、17ページ、18ページでは、イオン明石での環境イベントや市環境部主催の環境フェアへの参加など、エコウイングあかし全体で行った活動を紹介しております。

19ページから21ページにつきましては、各グループで行った取り組み、活動を記載しております。さまざまな活動を行っておりますが、詳細までは御紹介する時間がないので割愛させていただきます。詳しく活動について知りたい方に対してはホームページを閲覧していただくよう21ページにエコウイング

あかしのホームページについて御紹介しております。

続きまして、22ページをご覧ください。ここから26ページまでは明石市環境マネジメントシステムに関する記載となっております。明石市では平成12年度より環境施策の進捗管理ツールとしまして環境マネジメントシステムを導入しております。導入当初に国際規格であるISO14001の認証を取得し、その後平成19年には規格との適合性を自ら判断する自己宣言方式へと移行しました。環境施策の推進のほか、省エネの促進やエコオフィス活動にこれまで取り組んできましたが、平成23年度以降は第2次明石環境基本計画をはじめ、3つの個別計画の進捗管理に特化したシステムとするために見直しを進めてきました。このたび、規格に捉われない明石市独自の環境マネジメントシステムを策定しました。この新たなシステムの運用を今年度より行っております。

23ページには庁内で環境施策を推進するための目標設定方法について記載しております。各課の業務と環境施策を関連付けた目標である環境貢献（施策編）では各課から合計125項目の目標設定がありました。達成率は23ページ記載の表のようになっております。その中の一部の取り組みですが、24ページには市民に展開した取り組みを御紹介しております。1つは健康推進課で取り組んでいます食育に関するものです。こちらは地元でとれる野菜や魚に興味を持つ機会を提供し、地産地消の普及につなげるものとなっております。もう1点は交通政策課で取り組んでいますモビリティ・マネジメントです。公共交通機関の利用を促進するため、コミュニティバスの運行内容などを見直し、年間約5万人の利用者増となっております。

25ページには、環境貢献（エコ活動編）の目標達成状況と庁内での省エネ活動の結果として、コピー用紙ほかガソリン、電気、都市ガス、各項目についての使用実績を記載しております。いずれも庁内で削減に取り組みまして平成23年度の実績を下回る結果となっております。

26ページをご覧ください。こちらは内部環境監査についての記載となっております。平成24年度につきましては、環境マネジメントシステムの見直しの一環としまして、その監査方法を検証するため環境部を対象とした試行監査を実施しました。監査後には問題点等を整理しまして最終的なマニュアル等の文書を整理しております。

27ページをご覧ください。ここから29ページまでは庁内各部局の主な取り組みについて表にまとめております。先ほど御説明いたしました環境貢献施策編、エコ活動編の達成状況は、全ての課の評価をまとめたものとなっておりますが、ここでは各部局の主な取り組みを記載しております。各課の取り組みについてもまとめておりますが、項目が多くなっておりまして、30ページ以上に渡るものとなっております。環境レポートへの記載は困難なため、ホームページ上で一覧表を公開することとしておりますので御了承ください。

30ページをご覧ください。こちらは環境レポート以外に本市が発行しております環境に関する計画書等の資料についての説明とその入手方法について記載しております。添付しております画像に1点訂正があります。30ページ一番上の環境事業概要の画像なんですけど、これは平成23年度のものとなっておりますが、最終的には24年度のものに差しかえをいたしますので、よろしく願います。

最後になりますが、最終ページには環境レポートをご覧いただいた方から御意見を頂戴し、来年度以降の改善に役立てるためアンケートのページを用意しております。

お時間の都合上、端折った説明になりましたけどもレポート素案の説明は以上でございます。

○会 長 ありがとうございます。途中になるのですが、委員Eが来られましたので、まず事務局より御紹介いただけますか。

○事務局A 委員Eがお越しになられております。簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。よろしく願います。

○委員E 会議中の貴重なお時間、失礼いたします。他の諸会議に参加しておりまして、遅参でありましたことを深くおわび申し上げます。

一般社団法人明石青年会議所よりこの会議に参加させていただきますEと申します。私どもの団体も次世代の子供たちへ、どうやって明るい豊かな明石を残せるかということを日々念頭に置いて活動しております。環境というのは、本当に

何よりも地に足をつけて考えていかなければいけない問題だと思いますので、この会議で学んだことを私どもの会に持ち帰りまちに反映させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○会 長 では、委員Eも加わっていただきまして、よろしくお願いいたします。

 では、ただいま御説明いただきました明石市環境レポート2013（案）につきまして、全体を通しまして何か質問がございましたら、よろしくお願いいたします。

○委員F 質問というか、意見というか4ページ目の低炭素社会のところですが、「まちあかし」という形で中黒が入ってないのですが、8ページですと循環型社会のところでは「まち・あかし」といった形で統一されておられませんので、中黒を入れた形で統一したほうがよろしいのではないかと。

○会 長 4ページのところの「ストップ温暖化、低炭素社会のまちあかしプラン」のところの中ポツが飛んでいると。こういうような記載は統一していただいたほうが良いという御意見です。はい、どうぞ。

○事務局B 今4ページの部分と8ページの部分を御指摘いただいたと思いますが、個別計画の名称の関係で、「ストップ温暖化」のほうは中黒なしですけど、その後「循環型のまち・あかしプラン」のところは中黒つきで、名称を決めたという事情がございましてばらばらになっております。

○会 長 元からそうなんですね。元の計画に合わせているわけですね。

○事務局B はい、元の計画です。

○会 長 ほかにいかがでしょうか。

○事務局A 確かに計画どおりになっております。「ストップ温暖化、低炭素社会のまち」

というので、表記としてここに空白をあけたりしてわかりやすいように変えさせていただければと思います。

○会 長 そうですね。1字あけたりすると見やすいですね。
ほかにいかがでしょうか。はい、委員D。

○委員D 3点ほどあります。まず3ページになります。廃棄物の不法投棄対策に関する協定というところで先ほど口頭説明でいろいろあったのですが、私も明石市民としてこれは知りませんでした。逆に具体的に口頭説明があったように郵便事業のほうとどのような内容のことを協定しているのかというのを書いていただいたほうが、市民にとっては非常にわかりやすいかなと、私もだいぶんたってこんなことやっているだと初めて知りましたので、その辺をお願いできないかなというのが1点です。

それから4ページ目に関しましては、これも以前に話があったかなと思うんですが、このレポートがだいぶん遅れて出てきますので、非常に難しい部分があるのかなと思うんですけど、これだけ実績が22年度いう2年前ということになっていて、ほかは全部24年度ということでもう少し、せめて1年ぐらい前の実績が出ないのかなという、余りにも前のデータかなという気がしております。

最後にもう1点ですけど、15ページのエコウイングあかしのほうも、口頭説明で正式名称という話がありましたが、できましたらエコウイングあかし括弧で正式名称をどこかに入れておいていただきたいなということです。以上です。

○会 長 はい、ありがとうございました。

では1点目の3ページの不法投棄パトロール隊のことですけれども、こんなにいいことをやっているのに、審議会委員ですら知らないという、こういうふうないい取り組みはもっと市民の皆さんにわかるようにきちんと説明して、もっと広報すればやっているということがわかるのではないかということなんですけど、いかがでしょうか。

○事務局D 収集事業課長のDでございます。昨年、締結した不法投棄のパトロールですが、

とりあえず協定式の内容につきましては、主要2タウン誌さんに全て記事にしていただきまして、そのあと「広報あかし」のほうに実は載せております。皆さんのお耳のほうに届いてないのが非常に残念です。トピックスの部分につきましては、概略だけですが実は紙面の11ページの3のごみの安全・安心な適正処理のところの不法投棄対策の強化というところで若干業務の中身については触れさせていただいております。さらに積極的にPRに努めてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○会 長 ありがとうございます。広報で既にお伝えしていることと、11ページにもう少し詳しく書いてあるということです。

○事務局A 11ページに書いているのですが、離れていることもあって、このトピックスに例えばP11とかという形で表記させていただけたらどうかと思いますが、いかがなものでしょうか。

○会 長 よろしいですか。では、3ページの不法投棄パトロール隊のところ11ページ参照みたいなことを入れていただくと。

それから4ページの2つの表があるのですが、それが平成22年度の実績データになっているのですが、これをより新しいものに変えることができないのかどうかということなんですが、いかがでしょうか。

○事務局B こちらは地球温暖化対策の実行計画のデータの取り方といいますか、非常にたくさん種類のデータの収集をしているので、どうしても最新の部分がそろわない部分がありまして、最新でそろいますのが今年度で調査しますと、申しわけありませんが22年度で3年前の分ということに今現状ではなっております。

○会 長 温室効果ガスとして合計するときいろいろな年度が違うのが混じってくるので、全部そろうのが22年度ということですね。

○事務局B そうです。

- 委員D しょうがないですね。前もそんな話があったかなと思うんですけど。
- 会 長 よろしいでしょうか。3点目ですね。15ページのエコウイングあかしの正式名称を括弧に入れるなどして、入れていただきたいということですが、これはできますよね。
- 事務局B はい。
- 会 長 ではこれは入れていただくということで、よろしく願いいたします。ありがとうございました。
- ほかに、いかがでしょうか。はい、委員A。
- 委員A 10ページの食用油・小型家電の回収の実績が先ほど8.6トン回収したという御報告がありましたよね。これは回収したら資源になるように後の処理はどのような具合ですか。
- 会 長 廃食用油と小型家電に分けて。
- 委員A というのは、業者でも結構無料で持ってきてもらったらもらいず言っているところがあります。そんなところもやっているわけですから、そこら辺とのかかわりはどうなるのかなという感じを持ったのでちょっとお聞きしたい。
- 事務局E 資源循環課長のEでございます。ただいまの御質問、小型家電の回収のことになるかと思えます。御承知のように携帯電話とかデジタルカメラもそうですが、希少金属というのが含まれておりまして、これがなかなか量が多くなくて国内でリサイクルに回せないかということで、そういう趣旨で小型家電のリサイクルの事業というのが始まっております。もちろん民間の業者さんで無料回収しているというのがありますが、私ども市でやっている部分はちゃんと国内でそういう希少金属をリサイクルしていこうという趣旨で、市で携帯電話とかデジタルカメラを集めて鉄の精錬業者という、リサイクルルートを確立させて

いる業者さんに回してリサイクルしていただいているという事業です。

○委員 A 無料で回収しているんですか。

○事務局 E 無料で回収しています。そういう事業でございます。

○会 長 はい。精錬事業者さんに引き取っていただいて、回収していただいているということによろしいでしょうか。

○委員 A はい。それから質問ではないんですが、メガソーラーの完成予想図がここに出ているんですけど、これは非常にいいことだと私も思うんですね。あいている土地を活用して、こういうのをどんどん促進していくというのは非常にいいことだと思います。ただ、もう1つ、明石市内にも遊休農地が結構あるんですよ。今問題になってますけど減反政策をやるとかやらんとか、今新聞紙上でも話題になってますけど、これまでの経過から見て、いわゆる休耕田というんですか、その年によって休耕田も変わっていくという面ももちろんあるかと思うんですけど、農地の活用という意味でも非常にいいのではないかなというふうに私思ったりするのですが、その辺はどうですか。

○会 長 それでは遊休地を利用した再生可能エネルギーの利用促進について、何か御計画がございましたら。

○事務局 A 遊休地を利用したいということにつきましては、市有地などにつきましてまた検討していくという案はありますが、今御質問の中での主な土地というのは農地についてという御質問だと思います。農地につきましては、農地法等の絡みがあり、太陽光の利用については若干制限がかかっております。農業政策というのも重要な政策でありますので、エネルギー利用にという面では歯止めがかかっているというような状況でございます。今はそういう意味での規制は緩和されていない状況にあるということでございます。

○委員 A つまり農地法では、発電用のパネルを設置していくということにはできないという
ことになっているんですか。

○事務局 A してはいけないというわけではなしに、税金の関係とかいろいろな形での問題
もあろうかと思えます。現実に農地として使わない場合は、税の優遇がどうなる
のかなどいろいろな問題がありまして、現実に日本の中でも農地についての利用
がなされていないのも現状でございます。

○会 長 明石市有地について、遊休地の利用で今後どのようにしていくかというふうな
ものはありますか。

○事務局 A それにつきましては、検討課題と考えております。どういう形になるかとかは
まだわかりませんが、市有地につきましては、そういった再生可能エネルギー
についてまた新たな検討を加えていきたいというふうには考えております。

○会 長 はい、ありがとうございます。メガソーラーにつきましては、要するに埋立地
ですね、そこを利用して進めてらっしゃるわけですが、第1期と第2期がある
ということですね。

○委員 A 第1期と第2期はクリーンセンターのところですね。

○事務局 A そうでございます。

○委員 A それは非常に結構なことだと思っております。

○会 長 空いている土地でやっているわけですからね。

はい、ほかにかがででしょうか。

私からちょっと伺いたいことがあります。単純なことなんです、11ページの
環境学習の推進のところ、「学校へ行こう」というのがありますが、「学校
へ行こう」というのはどんなことをやってらっしゃるのでしょうか。

○事務局D 収集事業課長のDです。会長のほうから御質問いただきまして、PRになってしまって申しわけないのですが、この会ではないんですけど、資源循環推進審議会のほうでは、委員の皆さんには二、三年前にDVDを見ていただいたと思います。実はごみの分別啓発といいますのは、1つとして我々としましては子どもから家庭、家庭から地域社会というふうな形でのごみの分別啓発をスタートさせようというふうな思いもありまして、子どもに環境教育をするのにどういうやり方がいいのかなというところで、スタートしましたのが「学校へ行こう」です。学校の授業は小学校で45分ということですので、45分の中で何ができるのかなというところから考えました。

一応モデル的な内容としましては、実際にごみの収集者とか、ごみそのものを学校のグラウンドに持って行きまして、子どもに具体的な説明をしながらクイズも交えて、さらには収集車の体験もしていただきながら、実は収集事業課のほうでギターの2人組みデュオで「ゴミブクロ」というグループがあります。そのグループがごみの分別を訴えるキャンペーンソングというのを、DVDで2種類つくっております。1つは「ビューティフル明石」という歌ともう1つはレジ袋削減キャンペーンソングで、それぞれ手話入りでつくらせていただいております。そういった音楽、手話等も交えまして、45分間で子どもにごみの分別意識とか資源化の意識を持っていただくような取り組みを進めているのが「学校へ行こう」でございます。

ただ学校だけでなく、保育園、幼稚園、さらには外国人の方を対象としました日本語学校とか高年クラブさんとか、地元の自治会などにも同じような形で行かせていただいているのが実情でございます。また何かありましたらお声をかけていただきましたら行かせていかさせていただきますので、よろしく申し上げます。

○会 長 貴重な取り組みを御説明いただきました。

○事務局A 今の御質問について、ちょっと唐突に「学校へ行こう」というのが出てきておりますので、もう少し加筆させていただこうと思います。全てを書き切れるものではありませんが、若干これに触れた内容を加筆して説明を加えさせていただきたいと思います。

○会 長 そうですね。「ごみ分別スクール」でしたらすごく密着した書き方ですけど、「学校へ行こう」というのがちょっと唐突に出てしまっているのも、そういうような説明を少し入れていただいたほうがわかりやすいですね。

それから8ページ、9ページの「循環型のまち・あかしプラン」のところで、資源化可能物で紙類とか布類とかが多いということが書いてあって、紙類の削減が非常に重要なことが指摘されています。これは24年度の年次報告書になるのですが、今年度貴重な取り組みとして雑がみを収集されているわけですので、そういうことが必要ということをもう少しきちんとして書いておくわけにはいかないのでしょうか。現在の雑がみの袋も配布されていますよね。配布して雑がみを集めている、現在25年度の事業としてやられているわけなんですけれども、そこにつながるようなことをここに書いたほうがいいのではないかと思います。

○事務局E おっしゃるとおりだと思いますので、9ページの下にスペースがございますので、その辺りで調整したいと思います。

○会 長 恐らく一般の市民の方にとっては、なぜ雑がみの回収が始まったのかというのが、突然という感じがあるかもしれないので、その理由だとかそういうことをきちんとして書いておいたほうがわかりやすいのではないかと思います。

ほかに、全体を通していかがでしょうか。

今、副会長から11ページの下から4行目に、「そのため雑がみの啓発キャンペーンに取り組むことで」というふうに書いてあると、ここに書いてあるけれど、少し唐突なのでこれも9ページぐらいに少し説明があったほうがいいのではないかとということでもよろしいですね。

ほかに、いかがでしょうか。はい、委員G。

○委員G その雑がみキャンペーンですが、明石ゴミ研究会が11月キャンペーンをやりまます。明石の全域に渡ってキャンペーンの紙袋をばらまいていますので、それを12月に回収するという形をとっているんですね。よかったらそのときの写真などを撮っていただいて、ここに載せていただいてもいいかなと思います。市民活

動の一環としてもやっているんです。

○会 長 そうですね。これは24年度の報告ですが、今やってるのはどうなのでしょう。25年度にやっている。

○委員G 次に載せてもらったら。

○会 長 そういうのがつながっていくような感じで載せていただいたら。だから来年のちょうど今ごろに写真が出てくるという感じですね。
よろしいでしょうか。ほかにいかがでしょうか。

○副会長 環境レポートに対する意見についてですが、去年は10ぐらいなのか、20ぐらいなのか、どれぐらい出てきたのか、後、その意見は参考にするという事で整理されていると思いますが、これを出すことを考えておられるのか、いやもう出さないということなのか。ちょっとこの辺の総括をどうされているのか伺いたいのですが、よろしいでしょうか。

○事務局B 意見をどれぐらい昨年いただいたかということですか。

○副会長 その意見はどういうふうに反映されているのか、されてないのかということです。

○会 長 他市でやっていますよね。ちゃんとそれがどうなったのかということを書いているところもあります。

○事務局C ちょっと今手持ちの資料がないので、詳細までお話しできませんが、昨年度いただいた意見については、項目数でいくと5点ぐらいございました。

○会 長 そんなに出てない。

○副会長 項目数はいいんですけど、帰ってきたのは何通ですか。

○事務局C 数ですか。4通ぐらいです。

○会長 そんなに関心を持って見られていないんですかね。

○事務局C いただいた意見については、可能な範囲で反映はさせるようにしています。

○副会長 せっかくだから、これをPRするとか、配布をどれぐらいされているのかわかりませんが、こういうものをもっとPRをされたらいかがかなと思います。

○事務局A 実は、去年審議会からいただいた意見を参考に、課題と今後の方向性とかいうのも足しております。そういうものを含めて今副会長のお話の中でも検討させていただきたいと思います。方法につきましては、今具体的にはありませんが中身につきましては、内容とか確認しながら考えてみたいと思います。

○会長 ただいまの御説明は、例えば8ページの「循環型社会の実現に向けた取り組み」であれば、11ページに課題と今後の方向性というのが下のほうに何行か書いてありますが、昨年度までなかったことを今年度は取り入れているということですね。それぞれの章につきまして、課題と今後の方向性というのを昨年度から改善しまして、そういうのを入れたということですね。

それと、せっかく御意見が出たのでついでなんですけれども、メールでも御意見を伺うことができるようになっているのですが、メールで市に意見を送る場合にフォーマットみたいなもので、ここをクリックすれば意見が書けるようになっているというところがあるんでしょうか。それがなかったら、メールで送るとしてもどの課にどういうふうにするかわからないですよ。

○事務局B 今はメールアドレスを載せているだけですので、市のホームページの環境の部分に、この環境レポートを発行しましたとありますが、パブリックコメントを全て公表しておりますので、そのときにメールで回答していただきやすいような形を今後とっていきたいと思います。

○会 長 そうですね。書きやすくしないと、なかなか書かないですし、今ファクスで送るとするのは珍しいと思うので、メールで簡単に書けるようにすればもう少し意見が増えるかもしれないと思いますね。

ほかに、いかがでしょうか。なければ次に行かせていただいて、よろしいでしょうか。

では②の生物多様性あかし戦略推進会議について、説明をお願いいたします。

○事務局B 事務局の松浦です。議事②生物多様性あかし戦略推進会議について御説明をさせていただきます。お手元の資料3をご覧ください。

生物多様性あかし戦略におきましては、市の役割といたしまして、市民・事業者・活動団体・学校・行政など各主体と連携、協働体制を整備するとともに活動内容や支援の方法など、生物多様性に対する情報の共有化を図る仕組みを構築していくというふうに記載されております。今回この取り組みの一環として、生物多様性保全・回復活動を展開されています市民団体の皆様や行政などが集まり、活動内容や活動フィールドの現状などの情報共有や意見交換を行おうとするものです。

具体的な内容については、現在検討中でございますが、情報の共有と具体的な生物多様性保全の意見やプランなどを広く出し合っただけの場にできればというふうに考えております。

実施時期につきましては、本日の環境審議会でご提案させていただいた後に今年度中に開催をしていきたいというふうに考えております。

なお、意見交換会の名称につきましては、先ほども報告で触れさせていただきましたが、自然環境部会では「生物多様性意見交換会」としておりましたが、委員の皆様から開催の目的を明確にしないと自由に意見を言うだけの場になってしまうのではないかといたした御意見をいただきました。そこで、事務局で再度検討をさせていただき、生物多様性あかし戦略で定義をしております「生物多様性あかし戦略推進会議の設立に向けた意見交換会」として、目的を明確にした名称とさせていただきます。

意見交換会の参加者でございますが、市のパートナーシップ組織であり、ネットワークの中心的な役割を担っていただく、エコウイングあかしの自然グループ

の皆様を中心といたしまして、市内で生物多様性保全・回復に取り組んでおられる団体の皆様、及びため池や海などの管理団体の皆様にお声がけさせていただければと考えております。

まず第1回では、推進会議のあり方について広く御意見をいただき、その後、参加者の範囲を学校や事業者などに広げていければというふうに考えております。

最後に将来的な展開ということで、今後の展開のイメージを記載しております。意見交換会での情報、御意見につきまして市で集約、整理させていただき環境審議会及び自然環境部会で報告し、御意見を頂戴できればと考えております。

そして、市民・事業者・活動団体・行政などと連携を深めまして、生物多様性あかし戦略推進会議の設立など協働の取り組みへと展開をしていきたいというふうに考えております。

以上、簡単ではございますが、「生物多様性あかし戦略推進会議の設立に向けた意見交換会」について、御説明させていただきました。以上です。

○会 長 ありがとうございます。一応これは議事に入っているのですが、何かこれにつきまして、実際にこれに参加されている方から何か付け加えることがあれば。はい、委員D。

○委員D 私とか委員Bも参加して、いろいろ話をさせていただきました。すごくいいことですので、先ほどありましたデータベースのことも含めて、いろいろかかわっているメンバーがたくさんいますので、そこでこういうものをぜひやっていこうということで決まりました。特に内容についてはございません。

○会 長 はい、何か御質問などございましたら。

○委員B 回数とか、開催するのは何曜日とか、ある程度予定は決まっているのでしょうか。

○会 長 具体的な回数とか、何曜日とか。

○事務局B 推進会議の実施方法等については、まだ具体的な案というのはできておりません。まず推進会議設立に向けた検討会議ということで、ふだん活動をされていて、市ともやりとりをさせていただいている団体の皆さんにお声がけさせていただいて、まさにその実施の方法、具体的な開催の方法につきましても御意見を頂戴できたらというふうに考えております。

○会長 まだ本当に設立に向けた準備段階みたいな感じですね。

○委員A かなり大きな目標ですね。エリアもかなり広いですしね。非常にいいことだというふうに思いますが、具体的にどのようなものかイメージがもう一つ湧いてこないですね。そこら辺を何かもうちょっと練り上げてほしいなという感じはします。

○事務局A 御意見を参考に検討させていただきます。事務局で行うに当たりまして、推進会議の重要性というのは重々個別計画の中にも位置づけられて、認識はしているところでございます。よくあるパターンとしては、関係団体などを集めて、始めましょかというパターンがありますが、どちらかというとな実際の活動に根づいた実のあるものとしていきたいというのが事務局としての願いでございます。

一度こういうふうな最初の段階でイメージとして、イメージできないものになりつつあるんですけども、戦略会議を立てていってみんなでどうやって考えていったらいいかということを中心にして意見交換をしたいというので、最初は単なる意見交換会ということで自然部会のほうで提案させていただいたんですけども、その中でやはり目的を明確にして、なぜ集まるかということをお知らせする必要があるんじゃないかという御意見をいただきまして、このたび生物多様性あかし戦略の推進会議というものを実際につくっていくんだと、それでそういうものに携わっている方に集まっていただいて、とりあえず御意見をいただく。それをきっかけに参加される団体何かもまたふやせていけたらとか、いろいろ考えておるのが今の現状でございます。

今回は目的をはっきりして、とりあえずお声のかけられるところは集まって、まず設立に当たってどういうふうな意見を皆さんがお持ちであるかということをお

お聴きしてみたいというのが、この推進会議についての意見交換会でございます。

○会 長 先ほどの委員Aの御意見のように、これは膨大な目標なのでやはり準備段階でいろいろきちんと積み上げていったほうがいい方向に行くのではないかと思いますよね。データベースにしましても、ただ調査するだけではなく、それをどう活用するかというプランがなかったらせっかくのデータが余り活用されないということになるので、その方向性などをきちんと方向づけていただけたらなと思いますね。

○副会長 生物多様性を戦略的に考えるということで、非常におもしろい、いい組織なんですけど、環境レポートの15ページにエコウイングあかしが書いてありますよね。この図と資料3の図、よく似たようなのが書いてあるのですが、資料3に書いてあるものはこの15ページの環境レポートの図でいきますとエコウイングあかしの下に戦略会議、推進会議、多様性がついているというふうになると思って、それでエコウイングあかしと審議会とが連携してとかいうふうな非常に大きい壮大なもの下部組織になるようなところもありますので、これがいきなり今日の資料3のようにぽっと出ると、ここに「エコウイングあかしが中心となり」というふうに書いてはあるのですが、こういうふうに直したほうが、エコウイングあかしの下にこういうふうに、つけたほうがいいんじゃないかなというふうにも思います。ちょっと組織体制とか連携とかどうなっているのか、少し整理をされたほうがいいのかというふうに思います。

○会 長 位置づけですね。

○事務局B 資料3につけておりますのは、平成22年度に策定いたしました「生物多様性あかし戦略」こちらに記載されているイメージ図でございます。もう1つ環境レポートのほうにつけておりますエコウイングあかしさんがネットワークの核という分につきましては、第2次明石市環境基本計画、これは平成23年度に作成いたしましたのですが、こちらに書いてあるイメージ図。エコウイングあかしの位置づけをイメージした図で、確かに見た目は非常に似た形なんですけども、あくまでも

資料3のほうは「生物多様性あかし戦略」の中での推進会議の位置づけということで、当時につくったイメージ図です。このイメージ図が戦略策定時点で作ったものであるんですけど、なかなか具体化が進んできてないというところでイメージ図だけがあるというような状態になっておりますので、具体的に推進会議がどうやっていくのか、というのはまだ事務局でも積み切れてないのでそれも関係団体の皆さんに集まっていただいて、どうやって具体化していこうというところからスタートさせていただきたいというところがございます。

○副会長 その組織づくりとか、全体をどういうふうな形で連携させるとか、というふうなこともこの会議の中に入るということですね。やっぱりそれは素案か何かで示していただいて、これがイメージ図であって、こっちが環境基本計画のほうの図であるということであれば、少し原案として一緒に合体したようなものをつくっていただいたほうが、やっぱりよりわかりやすくなると思いますので、よろしくお願ひしたいのですが。

○会 長 これ、最初の御報告のように発端は自然環境部会からですよ。そこからスタートしているんですよ。

○事務局A そうです。それと今御指摘いただきました点につきましては、これは個別計画なんですけど、実は環境基本計画のほうにできておまして、若干進化系みたいになっておるのが現状なので、それも意見を参考にしましてこちらでも考えてみたいと思います。実際に出させていただくときには、イメージしやすいようなものとして生物多様性の戦略につきましては、実はこの絵でやっているのだからここにちょっと掲載させていただいているんですけども、環境基本計画は年次的には後にできて、こういう形に進化と言うか、こちらのほうが非常にわかりやすい状況になっているのが現状でございます。皆さんと会議を行うにつきましても、イメージ的なものも少し考えてみて、図も少し考えてみたいと思います。

○会 長 ただいまからの御意見は、だんだん下部組織みたいになっている割にはすごく膨大なので、どういうふうな位置づけなのかという感じですよ。すごく大きな

組織になりそうな感じがします。

○委員 A ところが図にしてみたら、何か似たような構成になっているから、これとこれとの関連と役割はそれぞれどうなっているのかなという、ちょっと私の頭では整理ができないところもありまして、イメージが持てるように素案を一つぜひお願いしたいというふうに思うのと、戦略推進会議のほうは、どちらかという団体を中心のようですね。漁協だとか、農水産関係の団体だとか、取り組んでいる団体だとかというところが大体中心になっているようですけど、例えば研究者もいらっしゃるわけですし、そういう個人の方も参加していただけるような門戸も開いて、構成していくというようなことも考慮していただいたら非常にいいんじゃないかなというふうに思います。以上です。

○会 長 より多くの関係者の方に参加していただけるようにということで、よろしくお願ひします。

○事務局 B 自然環境部会のほうでも、同じような御意見を頂戴しまして、まず1回目に、表現が適切かどうかわかりませんが、まず顔の見える団体で、もちろん有識者の方も含めましてお集まりいただきまして、そこから参加者を広げて、学校でありますとか、業者でありますとか、個人で活動されている方とかに広げていきたいというようなイメージで考えております。

○会 長 はい、よろしくお願ひいたします。

はい、委員 G。

○委員 G そのお声かけの団体ですけれども、今アダプト政策とかアダプト・プログラムで確か担当が土木課だったと思いますが、朝霧川の上流のほうで実際に活動されている団体もあります。担当は土木だったと思うので、一度そこにもお声をかけて実際に汗流してる方の御意見も取り入れられたらいいかと思っています。

○会 長 土木とか他の分野でやってらっしゃる方も入れて。

○委員G そうです。行政得意の縦割りじゃなくて。

○会 長 縦割りではなくという話ですので、よろしく願いいたします。

 では、全体を通しましていかがでしょうか。何か一言言っておきたいという御意見、またはここがわからなかったという御質問がございましたら、よろしく願いします。よろしいでしょうか。

 では、3のその他に移らせていただきたいと思いますが、事務局からその他で何かございますでしょうか。

○事務局B 環境レポートの今後のスケジュール、最初に説明の中でも触れさせていただきましたけど、資料2の別紙をもう一度ご覧いただけますでしょうか。

 本日、御審議いただきましたレポート、御意見を受けまして修正する点を修正いたしまして、修正個所について再度メール等で送らせていただきまして、パブリックコメントをここに記載しております約1カ月間という予定をしております。その後12月中には環境レポートを公表していきたいというふうに考えております。以上です。

○会 長 はい、ほかによろしいでしょうか。

 では、何も無いようでしたら、これで本審議会を閉会いたします。

 本日は、お忙しいところ、どうもありがとうございました。

16時31分 閉会